

みょうこうケアフォーラム通信

令和7年度 第2回 みょうこうケアフォーラムを開催しました！

- 日 時:令和8年2月26日(木)18時30分～20時00分
- 会 場:新井ふれあい会館 ふれあいホール
- 参加者:55名(介護ネットワーク加入事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)
- 内 容:『対人支援職として、その人らしい生活を支えるために～事例から各職種で学びを深める～』
 - 事例紹介 さくらメディカル(株)あらい居宅介護支援事業所 永田幸枝 様
 - グループワーク
 - ・この事例の感想・気づき、本人はどのような思いでいると思うか など
 - ・自分がこのケースの担当だったらどのような関わりをするか
 - 講義 揚石医院内科小児科循環器科 揚石義夫 様
 - 事例のその後を紹介
 - さくらメディカル(株)あらい居宅介護支援事業所 永田幸枝 様
 - さくらメディカル(株)あらい訪問介護支援事業所 吉越祐子 様

司会は実行委員
の川原さん



事例紹介

サービスを拒否するかたやコンプレックスを抱えたかた、できなくなったことへの受容ができないかたなどといった、対応に苦慮する事例の紹介をしていただきました。

事例紹介(Aさん)

【サービス利用状況】

- ・現在、ヘルパーは3事業所利用し、週3回(調理・ミキサーにかける・掃除)利用中。特定の職員以外は受け付けず、Aさんの希望した日にその職員が休みの場合、「ワシ以外の日に休めばいいだろ」と納得してくれず、ケアマネジャーに対し、「お前はケアが抜けている。マネジメントしているだけだ」などとの発言あり。
- ・ミキサー食については、粒の大きさなど、こだわりがある。
- ・以前、通っていたデイサービスの食事が良かったことを理由に、数年ぶりにデイサービスに行った際、「舌触りが変わった。けしからん。ワシのためにこうやれ」と、希望の料理ではないからと拒否。



さくらメディカル(株)
あらい居宅介護支援事業所
永田幸枝 様

グループワーク

紹介いただいた事例をもとに、グループワークを行いました。

3 グループワーク

- ①この事例の感想・気づき、
本人はどのような思いでいると思うか など
- ②自分がこのケースの担当だったらどのような
関わりをするか



<グループワークで出た主な意見>

- ①やるせなさ。現状を受け入れられない。一生懸命仕事をしてきた自負(他者にも同じように求めてしまう)。寄り沿ってほしい気持ちがあるのではないかと。息子にも頼れない迷惑をかけられない。さみしい自分をみて欲しい。食にこだわりがある。ミキサー食の味気なさ、人としての楽しみ、ふがいなさ等感じているのでは。
- ②育った環境、性格、おいたち、苦労等を傾聴し、時間をかけて信頼関係を築く。強みを見つける。相手の気持ちに寄り添う。本人がどのようにしたいのか、細かく聞いて支援を行う。何を求めているかのすり合わせを最初の段階できちんと行い、できること、できないことを一個ずつ伝えていく。Aさんと上手に付き合っているかたから、関わり方を教えてもらう。事業所間での認識を共有して連携を図り、ケアを統一する。

講義



揚石医院内科小児科循環器科の揚石先生より、「その人らしい生活を支えるための心構え ～かかりつけ医としてお伝えしたいこと～」として、対人支援職に求められている支援のあり方について、ご講義をしていただきました。

患者中心の医療の基本スキル「か・き・か・え」

患者さんの世界を理解する4つの視点

- か：感情 (Emotion)
- き：期待 (Expectation) → 「自分の話を聞いてくれた」
- か：解釈 (Interpretation)
- え：影響 (Effect)

信頼関係

関係性がすべての基盤

▶助言より関係性

先を急がず

▶指導より理解

過去に頼らず

今この瞬間に集中して向き合う



陥りやすい関わり → 望ましい関わり

【陥りやすい関わり】

- すぐに助言する
- 正そうとする
- 評価する
- 支援者が主導する

【望ましい関わり】

- まず理解しようとする
- 謙虚に問いかける
- 評価せず観察する
- 本人が主導する

信頼関係構築の4段階

① 安全

この人は否定しない

② 理解

この人は理解しようとしている

③ 信頼

この人なら話せる

④ 自己決定

自分で選べる

事例のその後を紹介

さくらメディカル(株)あらい居宅介護支援事業所の永田幸枝様、あらい訪問介護支援事業所の吉越祐子様より、事例のその後について紹介していただき、本人の思いにアンテナを張り、各事業所と共有しながら、本人に寄り添った支援を行うことが大切であることを共有しました。

5 事例のその後を紹介

電話ではなく、
対面で1対1で対話

本人の思いを汲み取り、
サービス提供

各事業所とMCSで共有
→一貫性のある対応に

ねざらい

→本人の思いにアンテナを張り、各事業所と共有しながら、本人に寄り添った支援を行うことが大切！



<参加者の感想>

- ・対人支援職としての関わり方について、復習になるとともに、新しい学びの機会となりました。
- ・一見難しいと思えるケースでもそのかたの生活背景や全てを受け入れることで、良い関係性を構築できるようになると思う。複数の事業所が関わる際は、MCSを活用し、一貫した対応ができるようにしたい。
- ・再度考えさせられることばかりでした。帰ったら現場職員にも研修していきたい。など

来年度もみょうこうケアフォーラムは、年2回を予定しています。ぜひ、ご参加ください！